

2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日

承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30  
 例会場 勝山市市民交流センター  
 〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
 TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760  
 URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>  
 Email:katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子  
 編集発行・文責 公共イメージ委員会



会長メッセージ ～ 縁（えにし）を継なく ～

第3118回 例会 (3月24日)

●会長スピーチ

会長 滝川 博則



皆さま、こんにちは。  
 3月も終わりに近づき、年度の締めくくりの時期となりました。そして来月からは新しい年度が始まります。  
 ところで、今さらながら「なぜ日本は4月始まり、3月終わりなのか」疑問に思ったことはありませんか。

実はこれ、明治時代にさかのぼります。当時、日本は近代国家として制度を整える中で、国の会計年度を決める必要がありました。

その中で採用されたのが、4月から翌年3月までの区切りです。

理由の一つは、当時の主な税収であった農業の収穫が秋に終わり、その税金の計算や徴収を経て、新しい予算を組むのに都合が良かったからと言われています。

また、この区切りが学校制度にも取り入れられ、入学や卒業のタイミングとして定着し、今の日本のリズムになりました。

つまり私たちが当たり前前に感じている「4月スタート」は、歴史の中で作られたものなんですね。

年度の終わりは一つの区切りです。そして新しい年度は、新しい役割のスタートでもあります。

私自身も「今日の役割を果たす」という気持ちで、また新しい年度に向かっていきたいと思えます。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○例会終了後臨時理事役員会を開催します。

●委員会報告

●ロータリー財団 梅田 秀司  
 本年度2回目の寄付のお願いです。よろしくお願ひします。

●社会奉仕委員会

幅田 浩司

4月26日（日）クリーンアップ九頭竜川が開催されます。ご参加のほどお願いいたします。

●親睦ロータリー家族委員会

幅田 浩二

4月21日（火）ランチ例会 ごはん屋ごっつお  
 5月26日（火）新緑例会 ルポの森 19時より  
 出欠のお返事は4月14日までにお願いします。

●出席報告

山内 智子

3月24日 欠席3名 85%  
 3月17日 欠席6名 70%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

届出欠席 齋藤清一郎・山本泰司  
 遅刻 滝川博則

2025-26年度 地区大会 4月5日6日 京都国際会館



本日 プログラム	会員卓話 辻・齋藤会員	4月21日 プログラム	ランチ例会	4月28日 プログラム	ゲスト卓話 福井県立大学生	5月5日 プログラム	休会
-------------	----------------	----------------	-------	----------------	------------------	---------------	----

## ゲスト卓話

## 人生100年時代と生命保険

日本生命保険相互会社 福井支社 大野営業部 営業部長 坂本 和樹 氏



本日は「人生100年時代を豊かに生きるために」というテーマで、生命保険の役割と今後の展望についてご説明させていただきます。日本生命保険相互会社の坂本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

## はじめに：人生100年時代とは

まず、「人生100年時代」という言葉について、現状のデータをもとにご説明いたします。

現在の日本の平均寿命は、厚生労働省のデータによりますと、男性が81.09歳、女性が87.14歳となっております。ちなみに福井県は、男性81.98歳、女性87.84歳と、全国平均を上回る長寿県でございます。

日本は世界でも最高水準の長寿国であり、この傾向は今後も続くと予測されています。2070年には、女性の平均寿命は約92歳、男性は約86歳に達するという推計もございます。

平均寿命が延びることは大変喜ばしいことですが、一方で新たな課題も生まれています。それが「健康寿命」との差です。健康寿命とは、心身ともに自立し、健康的に生活できる期間を指します。

平均寿命と健康寿命の間には、現在、男性で約8.5年、女性で約11.8年の差が存在します。この期間は、日常生活において何らかの支援や介護が必要となる可能性のある期間を意味しており、ご本人だけでなく、ご家族や社会全体にとっても医療費や介護費の増大という形で負担が大きくなるという課題につながっております。

実際に、弊社が以前実施したアンケートによりますと、「100歳まで生きることは、不安が増えることか、チャンスが増えることか」という問いに対し、約7割の方が「不安が多い」と回答されました。その不安の内訳としては、「老後の資金」「病気や介護、認知症」「社会からの孤立」などが上位を占めています。

これらのことから、「人生100年時代」とは、単に「長く生きる時代」というだけではなく、\*\*「いかに健康で、自分らしく生きるか」という「生き方そのものが問われる時代」\*\*であると、私どもは考えております。

## 社会構造の変化と「役割」の重要性

次に、社会構造の変化についてご説明いたします。

かつては、「学校を卒業し、就職し、定年まで勤め上げて引退する」という画一的なライフコースが一般的でした。しかし現代では、社会構造が大きく変化しています。例えば、社会人になってからの「学び直し」や、働き方の多様化が進んでいます。私の父も60歳で定年後、再雇用で働き続けておりますし、母も定年後に短時間勤務をするなど、年齢を重ねても働き続ける方が増えています。

このように、人生が多段階化する現代社会において、特に重要になるのが「年齢に関係なく、何らかの役割を持ち続けること」だと考えます。「誰かの役に立っている」という実感は、人生の質、いわゆるQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を大きく左右するのではないのでしょうか。

## 生命保険の誕生と役割の変化

ここで、私どもの生命保険業界について少しお話しさせていただきます。

生命保険の仕組みは、古くは中世ヨーロッパの組合に起源を持ちます。日本にその概念を広めたのは福沢諭吉であり、1881年に彼の門下生によって日本初の生命保険会社が設立されました。

当初の生命保険の主な役割は、万が一の際に遺されたご家族の生活を守るための「死亡保障」でした。かつて弊社のCMで「男は黙って5000万」というキャッチコピーがあった時代もございましたが、それはまさに、世帯主に万が一のことがあった際の経済的な備えを最優先に考えていた時代の象徴と言えます。

しかし、人生100年時代を迎え、生命保険の役割も大きく変化しています。現在では、死亡保障だけでなく、「**生きている間のリスク**」に備える保険が主流となりつつあります。具体的には、病気やケガに備える医療保障、介護や認知症に備える保障など、お客様が健康で長く生きることを支援し、その過程で生じる様々な経済的負担を軽減するための商品が増えているのです。

## 弊社の取り組みと今後の展望

このような社会の変化に対応するため、弊社、日本生命では「安心の多面体」というコンセプトを掲げ、お客様に寄り添う様々な取り組みを行っております。

その一環として、約2年前（2024年頃）に介護業界大手のニチイ学館をグループに迎え入れました。これにより、保険にご加入いただいているお客様が、ニチイ学館の有資格者に健康や介護に関する悩みを相談できるといったサービスを提供しております。

将来的には、まだ構想段階ではございますが、この連携をさらに深めていきたいと考えております。

## ロータリークラブ様の理念と職業奉仕

本日はロータリークラブの皆様の前でお話しさせていただきますが、皆様が掲げていらっしゃる「奉仕の理念」、特に「職業奉仕」という考え方は、これからの時代にますます重要になると感じております。

利益の追求だけでなく、自らの職業を通じていかに社会に貢献するかという問いを持ち続けること。そして、個人の成功だけでなく、社会全体の調和を大切にすること。これらの理念は、人生100年時代を豊かに生きるための重要な指針であると確信しております。

職業を通じて社会に貢献し続ける姿勢は、人生そのものを豊かにし、私たち一人ひとりの生きがいにも繋がるのではないのでしょうか。

拙い説明で、分かりにくい点も多々あったかと存じますが、本日のお話が、皆様にとってご自身の人生や、社会における奉仕のあり方を改めて見つめ直す、ほんの少しのきっかけとなれば幸いです。

本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。